

平成30年度 第2回瑞浪市化石博物館協議会議事録

日 時 平成30年10月17日(水)

13時00分～14時00分

会 場 瑞浪市化石博物館

レクチャールーム

出席者 <協議会委員>

松岡敬二・西尾京子

中山京三・今井敬博

<事務局>

工藤嘉高・安藤佑介

1. あいさつ

今井委員長から挨拶があった(内容は省略)。

2. 報告事項

平成30年度事業中間報告について

企画展、講座等30年度9月までに実施した各種事業の結果(参加者等)を報告した。

・講座について

委 員：学校との連携が増えているが、博物館へ来てもらうだけでなく、できれば学校へ出向き「授業」の形態で行ってほしい。

事務局：今後も呼びかけを行っていくが、動ける職員に限りがある。出張授業については市内の学校をメインに可能な範囲で対応したい。

委 員：講座に参加したが、知らなかったことがよくわかった。参加した方も瑞浪の魅力が再確認できたと評価していた。このような機会を増やすとよい。できれば大人向けの講演会もあるとよい。

事務局：極力対応するが、博物館主催だと参加者が少ない。できればみずなみかたりべの会など団体と連携して講演会を行いたいので、今後も各団体に呼び掛ける。

3. 協議事項

平成31年度事業計画について

・講座等の開催：講座の参加費について

委 員：講師への謝礼や材料費などの支出に比べて参加費の充当する割合が低い。最近の博物館では参加費＝講座の開催経費という考え方が主流である。経費が実費を上回るのは問題なので、対価を回収するという目的でも参加費を再検討したほうがよい。

事務局：早めに検討し、次年度は講座の開催経費への充当割合を増やしたい。特にみずなみ化石教室は現状でも参加希望者が多いので、参加費を増やしてもよいと思う。

委員：対価に見合う工夫をしたほうがよい。化石採集などは充実しているが、レプリカをつくる研修室が殺風景である。ポスターを貼るなど多少なりともハード面の充実をお願いしたい。

事務局：解説パネルを設置するなど改善したい。

・地元との連携について

委員：地元や近隣の大学とボランティア協定など組めないか。たとえば週末に大学生ボランティアが野外学習地で指導するだけで博物館の価値が高くなる。

事務局：地元には中京学院大学がある。今後ご提案のようなことができないか模索したい。

・予算について

委員：館の維持管理予算が削られることはあるか。

事務局：現状ではないが、今後あるかもしれない。しかし、今年も冷房器具の故障などがあつたため、予算要求は例年通り行いたい。

・展示資料等の購入について

委員：各学校では、春に図書室に入れる本を購入する。できれば教頭会などで化石博物館が図書コーナーに導入している書籍を紹介していただきたい。学校との連携にもなる。

事務局：4月の教頭会でアナウンスしたい。今後連携が深まるように働きかけたい。

・その他、新展示コーナーについて

委員：パネルの説明が難しい。「解説動画」ではなく、クジラの発掘など子供が興味をもつタイトルを考えてほしい。

事務局：検討し、対応したい。

・次回協議会について：来年の5～6月に開催することとする。